

2 社会教育系施設

(1) 施設の概要

社会教育系施設は、図書館と博物館等からなります。

平成 26 年度においては、本市の図書館は 5 施設あり、各地区に 1 施設立地しています。また、博物館等は 10 施設あり、新湊地区に 1 施設、小杉地区に 3 施設、大島地区に 2 施設、下地区に 2 施設、大門地区に 2 施設立地しています。

平成 27 年 4 月 1 日現在

施設分類	施設数	施設名	所有状況	管理形態	代表建築年度	経過年数	耐震補強	総延床面積 (㎡)	代表建築物構造
図書館	5施設	1 中央図書館	市有	市直営	H12	15	不要	2,346.38	SRC
		2 新湊図書館	市有	市直営	S56 (H20改修)	34 (7)	済	2,003.00	SRC
		3 正力図書館	市有	市直営	S62	28	不要	373.00	SRC
		4 大島図書館	市有	市直営	S59	31	不要	436.93	RC
		5 下村図書館	市有	市直営	H14	13	不要	366.00	W
小計							5,525.31		
博物館等	10施設	1 新湊博物館	市有	市直営	H10	17	不要	1,993.60	RC
		2 小杉展示館	市有	指定管理	M44	104	未	286.60	W
		3 竹内源造記念館	市有	市直営	S09 (25改修)	81 (2)	済	413.13	W
		4 正力・小林記念館	市有	指定管理	S62	28	不要	122.00	SRC
		5 陶房「匠の里」	市有	指定管理	H01	26	不要	1,189.79	W
		6 大島絵本館	市有	指定管理	H06	21	不要	2,405.75	RC
		7 下村加茂遺跡展示室	市有	市直営	H11	16	不要	38.57	S
		8 下村民俗資料館	市有	市直営	S63	27	不要	113.40	W
		9 埋蔵文化財整理室・考古資料展示室	市有	市直営	S54	36	未	420.67	RC
		10 視聴覚ライブラリー	市有	市直営	H12	15	不要	-	SRC
小計							6,983.51		
合計							12,508.82		

構造凡例 S：鉄骨造,RC：鉄筋コンクリート造,SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造、W：木造

大島図書館は、平成 27 年 12 月末で廃止
視聴覚ライブラリーは、平成 27 年度末で廃止

(2) 施設の現状と個別の基本的な考え方

1) 図書館

施設の現状

図書館
<p>建物状況</p> <ul style="list-style-type: none">・新湊図書館は、新湊中央文化会館の施設内施設であり、平成 20 年度に大規模改修を行っており、現在 7 年が経過しています。・廃止した大島図書館を除くその他の 3 施設については、築 30 年以上経過している施設はありませんが、正力図書館（大門総合会館内）は 28 年が経過しています。 <p>利用・運営状況</p> <ul style="list-style-type: none">・全体的にすべての図書館での延べ利用人数（図書貸出人数）はほぼ横ばいとなっています。・実利用人数は、すべての図書館で延べ利用人数（図書貸出人数）のほぼ 1 割（約 1 万 3,000 人）となっています。 <p>コスト状況</p> <ul style="list-style-type: none">・事業運営費を含むフルコストは年間 1 億 6,700 万円であり年間利用者 13 万 2,000 人で割り返した場合、利用者一人当たり約 1,300 円のコストであることがわかります。・人口減少も踏まえながら効率的な運営を図ることが今後の課題です。

基本的な考え方

図書館
<p>将来のあるべき姿</p> <ul style="list-style-type: none">・人口減少に伴う一定の利用者減少傾向の中にあっても、1 本館 1 分館体制とすることで、専門図書を含めた蔵書の充実とレファレンスサービスが強化されています。また、運用形態の工夫により、読書会や読み聞かせ会などの企画等が行われ、幅広い年代において満足度の高い図書館として利用されています。
<p>個別の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none">・将来的な 1 本館 1 分館体制を基本とし、休館日の変更や開館時間の延長など、利用者の利便性に配慮した運営について検討します。また、指定管理者制度の導入についても検討します。・そうした体制下にあっても、全市民が図書サービスを受けられるように移動図書館等のサービスや自動貸出、電子書籍の導入など IT（情報技術）を活用することによって施設のみに頼らないサービスの更なる充実を図ります。・存続館は、施設の劣化や不具合の早期発見に努め、「予防保全型」による対策を実施するとともに、ライフサイクルコストの縮減を図りながら、施設の長寿命化を図ります。・貴重な書物等を所有している施設である観点から、特に施設の管理水準の維持に努めます。

施設分類名	現在保有面積 (H27.4.1 現在)	削減想定面積 (40 年間)
図書館	5,525 m ²	550 m ² (10%程度)

2) 博物館等
施設の現状

博物館等
<p>建物状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物である小杉展示館は 104 年、竹内源造記念館は 81 年を経過しており、ともに国登録有形文化財であることから、今後も適切な保存を維持していく必要があります。 ・陶房「匠の里」、大島絵本館、正力・小林記念館、下村民俗資料館、埋蔵文化財整理室・考古資料展示室は、築 20 年以上を経過しています。 <p>利用・運営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新湊博物館は、平成 26 年度の年間利用人数が 6,375 人であり、年間開館日数の 291 日で割り返すと、1 日当たりの利用人数は 21.9 人程度となっています。 ・正力・小林記念館は、大門総合会館の 1 階部分にあり、平成 26 年度の年間利用人数は 788 人となっています。年間開館日数の 347 日で割り返すと、1 日当たりの利用人数は 2.3 人程度となっています。 <p>コスト状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度の新湊博物館のフルコストは 1 億 115 万円、陶房「匠の里」で 1,092 万円、大島絵本館で 9,842 万円となっています。利用者 1 人当たりのコストに換算した場合、新湊博物館で 15.87 千円、陶房「匠の里」で 0.81 千円、大島絵本館で 2.53 千円と、コストに相当の格差があり、集客力に対するコストが課題です。

基本的な考え方

博物館等	
将来のあるべき姿	
<ul style="list-style-type: none"> ・展示施設は集約統合され、展示内容が一層充実し、市内外から多くの人々が訪れています。 ・歴史的建造物は、地域団体による管理運営が行われ、歴史と文化が薫るまちづくりの拠点となっています。 	
個別の基本的な考え方	
<ul style="list-style-type: none"> ・展示施設については、できる限り 1 施設に集約し、建造物そのものが歴史的・文化的価値を有する場合は、その保全に努めるとともに、その建物にふさわしい機能を持たせます。 ・「視聴覚ライブラリー」については、平成 27 年度末で廃止しています。 ・存続施設は、施設の劣化や不具合の早期発見に努め、「予防保全型」による対策を実施するとともに、ライフサイクルコストの縮減を図りながら、施設の長寿命化を図ります。 ・博物館等は、貴重な歴史資料等を収蔵している施設である観点から、特に施設の管理水準の維持に努めます。 	

施設分類名	現在保有面積 (H27.4.1 現在)	削減想定面積 (40 年間)
博物館等	6,983 m ²	450 m ² (6%程度)